

[第2回] ひょうご障害者芸術文化活動支援センター あり方検討会資料

令和7年10月2日

兵庫県福祉部ユニバーサル推進課



Hyogo
Prefecture



目次

1	検討スケジュールおよび検討委員	3
2	本県支援センターに求められる事業	4
3	委員からのご提案	6
4	支援センターの運営方法による 利点・課題	8

検討会スケジュール及び検討委員

R 7 検討会スケジュール（予定）

8月	検討会設置	・委員数6名
9月	第1回検討会 日程：9月1日	<p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターに求められる障害者芸術文化支援の内容等 <p>【論点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の事業実施状況と推進にあたっての課題と把握 ・今後求められる事業の検討 <p>アウトプット：本県支援センターが行う事業内容</p>
	第2回検討会 日程：10月2日	<p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者芸術文化支援を実現するセンターの体制等 <p>【論点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回検討会で検討した、支援センターが今後行う事業の確認 ・事業の執行にあたっての、支援センターの役割、体制の検討 <p>アウトプット：本県支援センターが行う事業内容、実施体制</p>
10月	第3回検討会 日程：10月中旬頃	<p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討会としての提言とりまとめ <p>【論点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回検討会の意見調整及びとりまとめ

検討委員

氏名	所属・経歴等
服部 正 委員	甲南大学文学部人間科学科 教授
沼田 里衣 委員	大阪公立大学文学研究科 准教授
岡部 太郎 委員	近畿ブロック広域センター [たんぽぽの家] 代表
山崎 慎也 委員	神戸市垂水区 [こづかやまLaboratory] 管理者
文 委員	神戸市長田区 [NPO法人 DANCE BOX 事務局長]
笹谷 太郎 委員	「第1回・第11回こころのアート展」や 「神戸垂水アートプロジェクト」入選作家

※順不同です。

事務局

野田 誠一	福祉部次長
岩切 玄太郎	福祉部ユニバーサル推進課長
西田 勇	福祉部ユニバーサル推進課 社会参加支援班長
宮崎 大地	福祉部ユニバーサル推進課 主任
呉田 知子	ひょうご障害者芸術文化活動支援センター 支援員

音楽や舞台表現の場の創出

障害者芸術・文化祭(舞台部門)やミュージックフェアの拡充

【R7開催予定】

11/16 障害者芸術文化祭(舞台部門)

- ・どじょうすくい
- ・落語
- ・道化師のパフォーマンス
- ・車いすダンス

10/13 なかはりま・ユニバーサルデー (ミュージックフェア)

- ・しらさぎ特別支援学校軽音楽部
- ・手話コーラス
- ・障害者ちんどん

1/24 ほほえみ音楽祭 (ミュージックフェア)

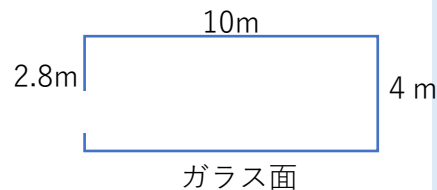
- ・ハーモニカ演奏
- ・マリンバ演奏
- ・ピアノ 等



専門家の積極的活用

人を呼び込む魅力的・効果的な展示や演出、活動を支援するアドバイザーの設置

- ・3ヶ月展示
- ・約40㎡
- ・10m×4m



- ・販売は展示期間内かつ管理できる条件で可能



芸術活動のスタートアップ 支援(物品、相談体制)

【現行の補助制度】

障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト

- ・絵画、書、写真、工芸品等の展示、演劇、演奏等の発表
- ・展示会等の開催に必要な経費の一部を助成
- ・イベント開催経費(会場・機材等の使用料、チラシ作成費等)
- ・運送設営経費(作品・機材等の運送費、設営費)
- ・消耗品、人件費、飲食費等は申請不可
- ・上限8万円(各5団体)

画材等の消耗品の提供等支援制度の創設

【画材のリユース】

画材バンク(TASCぎふ: 岐阜県障がい者芸術文化 支援センター)

不要になった画材や書籍
を集め、県内の障がいのあ
る方や福祉施設等に取り
にきてもらう

画材循環プロジェクト 巡り堂 (京都府みずのき学園)

集まった画材をクリーニング
し、障害者支援施設などへ
無償提供する



新たな障害者アーティスト の発掘

県内各地でのワークショップの開催

出張相談会など相談支援の充実

巡回展を福祉作業所が集まるイベントなどで開催

創作活動のスタートアップ支援(画材や楽器などの補助)

相談やワークショップ等の開催が可能 な支援センター内活動スペースの確保

庁舎移転の動向を踏まえ、中長期的な 課題として引き続き検討



委員からのご提案

服部委員

- 現状、十分な数の事業を行っていると思う。質の向上を目指してはどうか(常設展、公募展など)
- 障害のある人とない人の区別なく、一緒に活動できる場がない
- 障害者芸術＝福祉の構図になっており、美術・芸術関連の部署・専門家の参加がない
- 相談事業の充実
- 国内外からのグッズ化や作品販売等の著作権相談、展覧会への貸出依頼等に対応できる人材の確保
- スタートアップの支援

沼田委員

- 美術に比して、音楽や舞台芸術の事業が少ない
- 常設展示場を美術分野以外に活用できないか
- 芸術が共生の場となるよう、障害のある人、ない人が一緒に活動できないか
- 単年度予算では、事業展開がしにくい。繰越ができないか

中島委員(岡部委員代理)

- 兵庫県は、現場のニーズを拾い、丁寧に仕事をしている印象
- 美術と音楽で事業規模に不均衡は感じるが、「する・みる・ささえる」の事業展開は良い。重点をどこに置くかは重要
- 個人のニーズの把握、活動への支援も重要。新たな作家の発掘にもつながっていくのでは
- すべての事業を支援センターで行うのではなく、一部を専門的なスキルを持つ人材・業者に委託してもよいのでは
- 少額でもいいので、画材購入や貸倉庫等の補助が出せないか

委員からのご提案

山崎委員

- 常設展示場の展示の魅力向上を図るため、演出・レイアウト等に知見のある専門家を配置
- 常設展示場で物販ができるように
- 近畿ブロック広域支援センターや他府県が持つ、著作権などの知識・ノウハウを県内作業所でも共有できるとよい
- 才能のある表現者の発掘

笹谷委員

- 多くの事業を行っていると感じる
- 事務機能だけではなく、展示や創作活動ができるスペースを支援センターに設置できないか
- 支援センターが子供や高齢者も含めて交流できる場所になると良い。交流が刺激となって新しい作品が生まれる
- 美術作品公募展など多くの人が集まる機会に、音楽等のパフォーマンスの場がつかれないか

文委員

- 県の芸術の取組は美術が多いように感じる。ダンスなど美術以外の事業も増やせないか
- 教育や芸術、福祉部門のほか、神戸市等市町とも密に連携して一体的に事業展開できないか
- 兵庫県は広い分、たくさんの人材や専門家がいる。ネットワーク化して積極的に活用すればよい
- また、活動場所も多くある。知ってもらえるように、情報発信をしていくべき。行政で広報できないか

支援センターの運営方法による利点・課題

行政直営の利点

- 行政関連部署(教育、文化等)との横断的な連携がしやすい
- 情報発信に利点(福祉サービス事業者の情報を把握、行政の広報誌や施設への配架が容易、行政の信用)
- 事業実施主体が変わらないので、中長期的な視点での事業展開が可能(ノウハウ、課題の蓄積)

行政直営の課題

- 専門的な知識や経験をもつ職員を安定して配置できない。
- 人事異動により数年で担当者が交代することから、専門的知識等が蓄積されない。
- 相談支援体制の確保(経験の浅い担当者の配置・執務スペースでの相談対応(相談しにくい))

事業委託の利点

- 専門的な知識やノウハウを生かし、適切な支援ができる
- 委託事業者と活動主体(福祉作業所等)とのネットワークを生かし、効果的かつ効率的な事業運営が可能
- より近い視点で、タイムリーに課題を把握できる。また、活動支援ができる

事業委託の課題

- 委託料が低く、人件費に充当すると、活動費に限りがある。単年度契約のため、次年度の見通しが困難
- 芸術に関する知識や企画力、折衝力等総合的資質を持つ人材の確保
- 行政とのスムーズな連携に課題。行政が現場の声(当事者)を聴く機会が少なくなる